

浙江省人民代表大会表敬訪問



河原崎 聖

1 浙江省人民代表大会 梁 黎明 常任委員会副主任 表敬訪問

- (1) 年月日 平成 30 年 6 月 4 日 (月)
- (2) 場 所 浙江省人民大会堂
- (3) 出席者 浙江省人民代表大会常任委員会副主任 梁 黎明 氏
浙江省人民代表大会外事工作委員会主任 何 新国 氏
浙江省人民代表大会外事工作委員会弁公室副主任 馬 嵐 氏
浙江省人民政府外事僑務弁公室副主任 陳 安 氏
浙江省人民政府外事僑務弁公室アジア・アフリカ処副処長 胡剛 氏

2 浙江省人民代表大会主催歓迎宴

- (1) 年月日 平成 30 年 6 月 4 日 (月)
- (2) 場 所 浙江省人民大会堂
- (3) 出席者 14 人 (静岡県 9 人、浙江省 5 人)

3 概 要

渥美泰一議長を団長とする静岡県議会浙江省友好交流・中国事情調査団 9 人は、平成 30 年 6 月 4 日浙江省人民代表大会を表敬訪問した。浙江省側からは、梁黎明浙江省人民代表大会常務委員会副主任をはじめ 5 人の方々に対応していただいた。

表敬訪問の席上では、まず、梁副主任から歓迎の挨拶があった。

静岡県と浙江省の関係は、日中の地域間交流の見本になるものとして中国政府からも高く評価されているが、梁副主任は浙江省の外交関係を担当する副省長を5年以上務めたことから、静岡県内の行政・議会、更には民間団体との交流が深く、両県省の友好関係の窓口となってきた方で、昨年4月に静岡で開催された友好提携35周年記念式典には、浙江省友好訪問団の団長として来静されている。

梁副主任からは、これまでの静岡県との交流に対する御自身の思い入れの深さについての話と昨年の訪問の際の静岡側の歓迎に対する感謝の言葉があった後、最近の浙江省の状況について説明があった。



浙江省人民代表大会表敬訪問

浙江省の現在の人口は約5,590万人で、面積は約10万平方キロメートルとなっている。経済面では、昨年のGDPは約7,700億ドルであり、一人当たりのGDPでは14,000ドルとなる。

浙江省の経済については5つの特徴がある。

1つ目は、民間経済が発達していることである。現在、浙江省内には約200万の企業があるが、そのうちの約8割は民間企業が占めている。

2つ目は、イノベーションを重視していることである。現在、浙江省ではAIやビッグデータといった次世代を担う産業を支える人材の育成に力を入れている。デジタル経済については、浙江省内にアリババが本拠を構えていることが有名だが、既に省の経済全体の25%の規模に達している。

3つ目は、開放が進んでいることである。寧波舟山港は、昨年貨物取扱量が世界で初めて10億トンを超えるなど、9年連続で世界一を維持しているが、金額では3,779億ドル、その3分の2は輸出が占めている。輸出に非常に強い港と言えるわけだが、この輸出金額は中国全体の12.7%に当たる。

4つ目は、環境面で優れているということである。浙江省は全面積の約7割を山林が占め、川や水田が豊富にあるなど、自然環境に恵まれている。省の政策として、自然保護や環境汚染対策に力を入れ、都市部・農村部ともに予算を割いてきたことで成果を上げ



記念品の交換

ているが、その結果として、観光面にプラスとなり、昨年度は6億4,000万人の観光客が訪れ、1兆元の観光収入があった。

5つ目は、文化の香りが高いということである。浙江省の省都である杭州は、過去に2つの時代において中国の首都となった歴史があり、伝統ある都市である。また、多くの有名な文化人を輩出しているが、特に明や清の時代に活躍した王陽明は、日本にも多大な影響を与えたと聞いている。マルコ・ポーロからも世界一と評された杭州は、非常に高度な文化を持った都市であり、それを背景に絹織物・お茶・磁器といった産業が発展してきた。

こうした経済面を中心とした浙江省の現況の説明の後、改めて梁副主任からは、浙江省と静岡県は親戚のような関係であり、これまで35年以上続いてきた交流が、今後も多方面にわたり末永く続けられていくことを期待しているといった言葉があった。



梁副主任の歓迎のお言葉を拝聴する筆者

これに対して、訪問団を代表して、渥美団長が挨拶に立った。

まず、今回の訪問に対する浙江省側の歓迎に感謝の意を表するとともに、今回の友好団の目的が両県省の更なる交流の促進に合わせて、発展著しい浙江省の実情について認識を深めることであると語った。産業面では、貨物取扱量世界一を

誇る寧波舟山港や世界一の性能を持つといわれる監視カメラの企業などハイテク企業の実情に関心を持っている。また、民生面では、日常の決済がスマホ1台で済んでしまうことや、環境面を考慮した電動バイクの普及といった事柄を目の当たりにできるのではないかと期待している。静岡県議会では、日中友好議員連盟を結成しているが、今後も静岡県と浙江省の友好促進に努めていきたい。このような趣旨の挨拶が交わされた。

渥美団長は、地元の日中友好協会の会長を務め、中国に20回以上来ているということで、浙江省側の人たちと既にかんがりの交流があり、友好関係を築いているが、私をはじめとする他の団員は初めて接する方ばかりで、どのよう



歓迎宴の大テーブル

な人たちが相手をしてくださっているのか理解できなかつたが、後で聞いて、かなり地位の高い方々が出席していただいていたことが分かった。これも、浙江省側の静岡県に対する重視の姿勢の現れであると思う。

4 まとめ

正直言って、私は中国に対してあまり関心がなかつた。私が住む島田市は浙江省にある湖州市と友好提携を結んで30年になるが、自分自身は行ったことがない。また、浙江省に対しては、上海の近くにある省だということくらいは理解していたが、それ以上のことは知らなかつたし、知ろうともしなかつた。しかし、今回の訪問で、遅まきながら浙江省が静岡県にとって、また、日本にとって重要なところだということの一端が理解できたものと思う。

私が関心を持ったことの1つ目は、文化面のことである。現在、NHK大河ドラマの主人公である西郷隆盛をはじめとする明治維新の指導者たちの思想的背景には「知行合一」で知られる陽明学があったと聞いている。また、私のように

地方自治に関わってきたものは、まちおこしの参考に山田方谷など江戸時代の藩政改革で実績を上げた人たちを勉強させてもらうことがあるが、そうした人たちの思想の背景にも陽明学があったそうだ。その陽明学の祖である王陽明は、今回の訪問団が最初に訪れた寧波の出身ということが、まず驚きであった。

2つ目は、緑茶に関することだ。静岡市の茶祖と言われる聖一国師は杭州の寺で修業し、緑茶を静岡に伝えたそうだが、こうしたことも初耳であった。

3つ目は、ハイテク産業について。私は浙江省にアリババの本社があるなんて知らなかったし、そのほかにも次世代産業が多数集積し、人材も豊富に集まっている。ますます経済発展が進むであろうことは容易に推察できる。

4つ目は、地理的優位性だ。浙江省は、寧波舟山港のように物流面で既に大きな役割を果たしているわけだが、北京と香港の間にあつて上海に近いことから、中国全体の中でも更に重要な地域になっていくものと思われる。中国へのゲートウェイとして適地であることが理解できた。

このように中国の中でも極めて優良かつ有望な浙江省と良好な関係を永年築いてきたことは、静岡県にとって貴重な財産であり、大きな強みとなりうるものであろう。友好の歴史を積み重ねてきた先達の慧眼と努力に敬意を表するとともに、今後の友好関係を更に充実したものにするために、我々が果たすべき役割について真剣に考える必要があると感じた。



浙江省人民大会堂貴賓室にて